

金融市場NOW

「ESG」重視の運用広がる

GPIF 国連の「責任投資原則」に署名

「ESG投資」(注1)が広がりを見せつつあります。

約140兆円(2015年6月末)を運用する年金積立金管理運用独立行政法人(GPIF)は、9月28日に国連の「責任投資原則」に署名したと発表しました。国内公的年金では初めての署名となります。また同内容を、安倍首相は国連サミットの全体会合の演説で公表しました。

外国法人等の国内株式保有比率(全市場・金額ベース)が、2014年度末で過去最高となる等海外からの証券投資は増加傾向にあります。こうした流れを継続させ、海外年金等から中長期視点の投資資金を呼び込むには、欧米で先行する「ESG投資」が日本でも広がる必要があるように思われます。ESGに着目した投資先選別の広がりや、社会貢献等を通じて企業の持続的な成長を促し、投資パフォーマンスの向上にもつながるものと考えられています。

国連の「責任投資原則」に署名した年金基金や運用会社等の数は、2015年4月時点で約1,400ですが、その内日本は30程度に留まっています(注2)。

今回のGPIFの署名をきっかけに、ESG投資に対する注目度が更に高まるものと思われる。

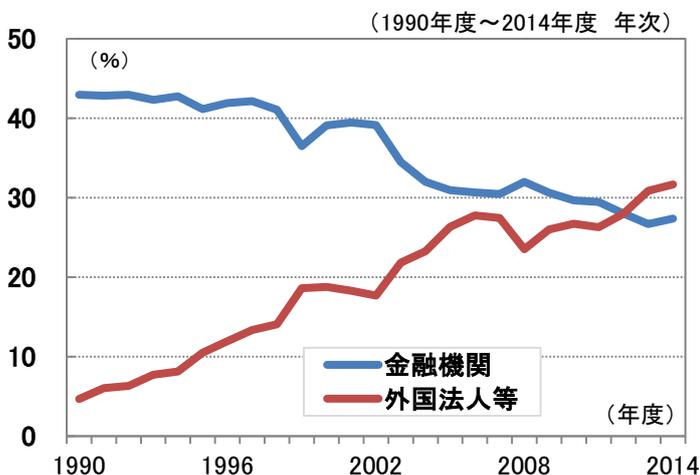
(注1)「ESG投資」とは

「ESG投資」のESGとは、Environment(環境)、Social(社会)、Governance(企業統治:ガバナンス)の頭文字をとったものです。株式投資における銘柄選定において財務分析等に加えて、環境問題への取り組みや、株主、顧客、従業員、地域社会などの利害関係者に対していかに企業が社会的責任を果たしているかをチェックして投資をします。ESGに配慮して行動する企業は、経営の持続的な成長が見込め、投資対象としてパフォーマンス向上にもつながると捉えられています。

2006年に国連が採用した責任投資原則(PRI)に盛り込まれたことで欧米を中心に広がりを見せています。

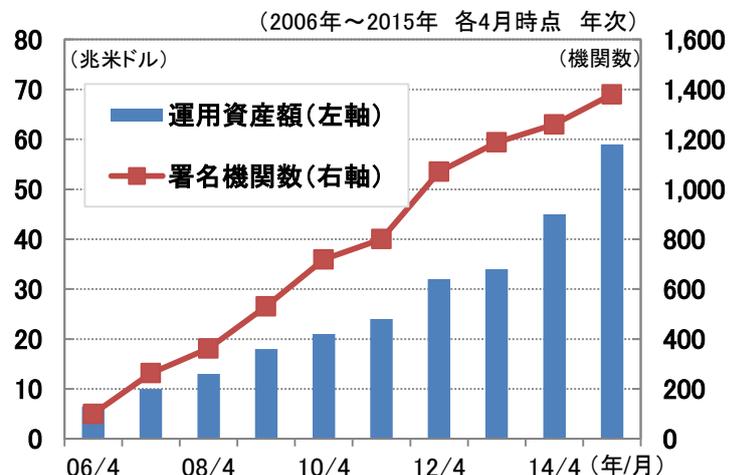
(注2)ニッセイアセットマネジメント(株)も署名しています。

図表1: 投資部門別国内株式保有比率(全市場・金額ベース)



出所: 東証データを基にニッセイアセットマネジメント作成

図表2: 責任投資原則に署名する機関投資家数と運用資産額



出所: PRIデータを基にニッセイアセットマネジメント作成

●当資料は、市場環境に関する情報の提供を目的として、ニッセイアセットマネジメントが作成したものであり、特定の有価証券等の勧誘を目的とするものではありません。●当資料は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。●当資料のグラフ・数値等はあくまでも過去の実績であり、将来の投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。また税金・手数料等を考慮しておりませんので、実質的な投資成果を示すものではありません。●当資料のいかなる内容も将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。